

四国あるき遍路の旅



平成25年11月15日（金）～17日（日）

讃岐への関所「雲辺寺」を打ち終える

前回、西条市で残した前神寺をお参りして、伊予三島へ移動。伊予三島駅から三角寺への遍路道は、雲辺寺への歩きを試されるような登りと下りがあり、悔えることができませんでした。二日目には、三角寺から雲辺寺への山あり谷ありの長丁場でした。なんと、約28kmという、圓福寺歩き遍路での一日での最高歩行距離を記録しました。全員踏破できたのは、一人ひとりのがんばりはもちろん、天気にも恵まれたことと仏さんのご加護というよりほかありません。

三日目の本山寺への遍路道は、五重塔をめざしての川沿いの道。いかにも歩き遍路らしい景色の中を歩くことができ、変化に富んだ第12回の締めくくりとなりました。



目次：	頁
六十四番前神寺	2
六十五番三角寺	4
六十六番雲辺寺	8
六十七番大興寺	11
六十八番神恵院	13
六十九番観音寺	13
七十番 本山寺	14

六十四番前神寺

鳥居をめざして前神寺

前回最後の六十三番吉祥寺から六十四番前神寺までは、約3.2km。前回、あとちょっと歩けば前神寺まで行けたのに・・・。と思うのは、効率や合理性を優先する現代人の特徴か、はたまた欲張る人間の性（さが）でしょうか？

私たちは歩きをモットーとしていて、効率や合理性の対極にいるおかげで、欲をコントロールできるようになっているはずで

す。と、前回のいいわけをして、石鎚山駅で途中下車して、六十四番前神寺へのお参りに立ち寄ることになりました。

駅から道と国道11号の交差点には、ゆべしが有名な星加というお菓子屋さん。そのわきには巨大な赤い鳥居が建っています。【右の写真】これは石鎚神社の大鳥居で

す。これをくぐって、さらに先には石の鳥居と、鳥居をめざしてお寺に向かうという奇妙な歩きはじめとなりました。

歩きの遍路道に出て左に折れると、前方右手に前神寺の建物が目に入ります。

六十一番香園寺から前神寺までは、旧街道が歩きの遍路道で、集落を縫うように前神寺に向かい、私の好きな道の一つです。今では、国道11号が宝寿寺と吉祥寺のすぐわきを通るようになり、お遍路さんはもっぱらそちらを歩いているようです。

吉祥寺から古い遍路道を歩いてきても、石鎚神社の鳥居が見えてくると、もうすぐ前神寺だからなので、鳥居をめざしての歩きであることに変わりありません。



松山駅で予約しておいた「醤油めし」



【前神寺の歴史と由来】

前神寺は、日本七霊山の一つ国定公園：石鎚山（標高1982m）の麓に所在する。真言宗石鉄（いしづち）派の総本山であり、修験道の根本道場でもある。弘法大師は若い空海のころ、この石鎚山に2度入山しており、虚空蔵求聞持法や37日におぶ護摩修法、あるいは三七日（21日間）の断食修行をしたことが知られている。

縁起によると修験道の祖・役の行者（えんのぎょうじゃ）小角（おづの）は、石鎚山・山頂で苦修連行し、釈迦如来と阿弥陀如来が衆生の苦しみを救済するために蔵王権現となって現れたのを感じた。その尊像を彫って安置し、祀ったのが開創とされている。その後、恒武天皇（在位781～806）の病氣平癒を祈願したところ、成

就されたので、七堂伽藍を建立して、勅願寺とされ「金色院・前神寺」の称号を下賜した。

以来、歴代天皇の帰依が厚く、仏像や経巻がしばしば奉納され、諸堂の修復や増築にも寄与されている。また、江戸時代には西条藩主・松平家の祈願所になるなど、寺運は隆盛を極めた。しかし、明治新政府の神仏分離令により寺領を没収され、廃寺を余儀なくされた。その間、石鎚神社が建立されたりしたが、明治22年に霊場として復興した。

信徒は、現在300,000人を超すといわれ、毎年7月1日からの「お山開き」には数万人にのぼる白衣姿の信者たちが集まり、法螺貝の音に「なんまんだ」を唱和している。

三角寺へ



乗換えの西条駅で、なつかしいアンパンマン列車と遭遇。

三角寺への遍路道から振り返ると、伊予三島の街並みの先に、瀬戸内の海が広がっていました。



雲辺寺への足慣らし



あまりの暑さにお着換え中。

快適な列車での移動は、ふと歩いている遍路であることを忘れさせます。

駅から高速道路をくぐるあたりまでは、そんな気楽な気分でも歩けますが、休憩した戸川公園を過ぎたあたりからは、いやでもそんな旅行気分は消えてしまいます。この先、標高差400mほどを一気に登らなければならないのです。

いよいよ山の中に分け入るところで、小学生らしいグループが駆け下りてきました。三角寺の紅葉がきれいだったと叫びながら、あっという間に下って行きました。まるで天狗の子孫でもあるように……。私たちは、これから息も絶え絶えの登りかと思うと、うらやましいことこの上なし！

小天狗の行場かと思いながら、明日の雲辺寺はこんなものじゃないと言い聞かせ、その足慣らしと思いなおすことにして、ようやく三角寺の石段の下に辿りつくことができました。



【上・右】 途中まではコンクリートで舗装してありますが、その先は本当の山道となります。

六十五番三角寺



道中の工夫

三角寺の石段の下で、全員がそろうのを待っていると、次から次にジャンボタクシーのお遍路さんたちが駆け込んできます。時刻は4時少し前、納経所が閉まる前に三角寺のお参りを終えて、観音寺あたりの宿に入りたいのだそうです。私たちが明日一日かけてようやくたどり着く観音寺に、あと一時間ぐらいで到着してしまうわけです。歩き遍路から見たら、タイムマシンに乗って遍路をしているようです。タイムマシンが時間を飛び越えてしまうように、札所間の道中を一足飛び。修行中に「動中の工夫」とよく聞かされましたが、道中の工夫がないわけです。



三角寺本堂でお参り。



雲辺寺へ

スーパーホテル



三角寺から下っていく。



雲辺寺へ出立



スーパーホテル四国中央には、温泉大浴場もあり、朝食には焼きたてのパンもあります。あまりの快適さに、今日の雲辺寺行きの難所が際立たなければいいなと思いつつ、焼きたてのパンをほおぼって、いざ出立。

7時から開いているイオンで昼食を調達し、一貫田バス停から歩き遍路の道と合流する平山まで移動。途中、昨日お参りした三角寺がある山が目の前にそびえているのが見えました。

山の中の集落にあるバス停も、なんとGoogleのストリートビューで確認することができ、タイムマシンのようなバスから降りても、全く迷うことなく歩き始めることができます。1日中、歩くぞ！



雲辺寺へ

まだ平ら

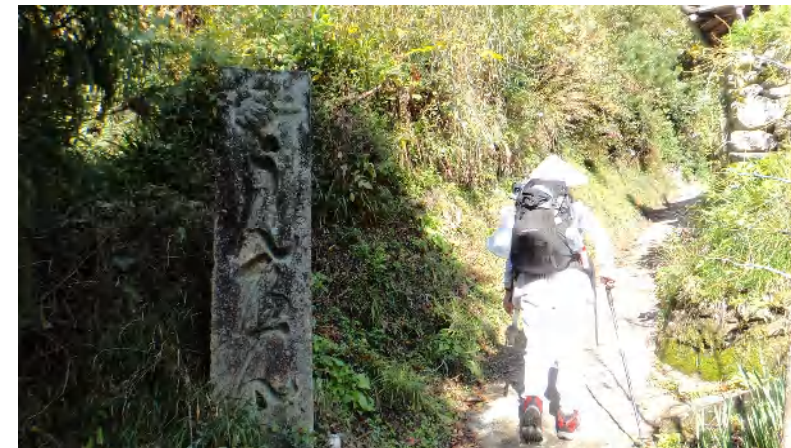
バスを降りたところからは下る一方で、今日の登りを思うと、せっかく登ったのと思ってしまいます。雲辺寺への道で一番標高が低いところにあるのが、「椿堂」という別格十四番札所。病を封じた椿の杖を埋めたところ、この杖から椿が芽を出したといわれ、「弘法大師御杖之椿」というのだそうです。

椿堂で少憩して次の休憩は、国道沿いに建つ新しいへんろ小屋。小屋の中に干し柿がぶら下がっていましたが、食べるにはまだ少し早いようでした。まさか、だれも手を出していないでしょうね？

遍路道は、椿堂から国道に出て、七田の集落までは歩道を歩きますから、まだまだ平らです。いつも山越え同様、いつどこから登りになるのか、そろそろ気になりだします。



【上】まもなく椿堂を出発。
【右】国道沿いの新しいへんろ小屋で小休止。
【下】七田集落から曼陀峠に向かう遍路道の入り口。



雲辺寺へ



山の畑のほりにも、手作りの道案内。



雲辺寺への長丁場

徳島に向かう国道192号線のおそらく愛媛県側最後の集落、すでに山が迫ってきています。国道からその集落に入り、少し歩くと、山道の入り口に古い石の道しるべがあり、いよいよの登りとなります。と思いきや、少し登ると山林作業用と思しき簡易舗装の道に出て、しばらくは落ち葉の積もった舗装道路を歩きます。歩けども歩けども続く舗装された林道に、よくぞこんな山奥まで舗装したものだと驚かされます。

遍路道は、標高550mあたりから舗装道路からそれて、山中に入ります。この山中で一旦徳島県に足

を踏み入れ、雲辺寺に向かう車道に出たあたりで香川県に入ったようです。通り過ぎた曼陀峠は、かつて讃岐と阿波とを結ぶ生活道路の峠だったそうです。

曼陀峠を過ぎたあたりで、各自昼食をとるように連絡をして、それぞれ道端での昼食となりました。天気がいいからなせる技で、雨なら雲辺寺までお預けとなるどころでした。

ふたたび歩き始めると、一巡目に登ってきた遍路道と合流。あのきつい登りを思い出しましたが、今回のだらだら登りも、結構こたえるものだと実感しました。



【左】愛媛県の人は、徳島県との境界を「境界」と呼ぶそうです。ちなみに、香川県との境界は「県境」(けんざかい)というそうです。雲辺寺まで、あと八キロ地点。



【上左】まだまだ人里

【上右】遍路道の愛媛終点

【下左】雲辺寺への尾根道からの眺め。はるか遠くは剣山か？

【下右】まもなく雲辺寺のあたり

六十六番雲辺寺



雲辺寺大師堂でお参りをする。

讃岐への関所、雲辺寺

尾根伝いを走る車道と、山道とを出たり入ったりしながら、ようやく雲辺寺に到着。先頭がついてから、全員揃うまでに約20分、それだけきつい道だったことがわかります。

7時15分にホテルを出発して、8時少し過ぎに平山バス停から歩きはじめ、雲辺寺に全員到着したのは午後1時35分。こゝまで、約5時間半の歩き遍路でした。

ようやく讃岐の国に足を踏み入

れたわけですが、車やロープウェイを使わず、歩いたからこそ、雲辺寺は讃岐への関所のように感じられます。

ちなみに、四国八十八か所の標高ベスト3は、

第一位 雲辺寺 910m

第二位 横峰寺 745m

第三位 焼山寺 700m

だそうです。

この先の讃岐では、八十八番大窪寺の445mが最高ですので、比較的平坦な道が多いはず。



雲辺寺からの下り

登れば下るは、世のならい

雲辺寺をお参りして、五百羅漢たちに見送られて、観音寺に向かって下り始めます。

登ったら下らなければならないのですが、6ページの図を見てわかるように、雲辺寺からの下りは、約5kmの距離で700m下るという急坂でした。

私にとっては、右かかと骨折後

はじめての遍路でしたから、きついこときついこと、特に最後の階段は、横歩きで下りるほどでした。再び腫れた足も、下りが酷だったことを物語っていました。

私の後ろからは竜波くんが従ってきましたが、どうも足音が一人ではないように聞こえます。さては、ついにお大師さんが現れたかと思ったら、4本足の櫻田さんでした。両手のストックがあれば、下り坂も難なく下りられるのです、と豪語。それに遅れることわずか、平山さんが下りてきました。さすがに最近山登りしているだけです。このお二人には、人生の下り坂は無縁のようです。

というわけで、先頭組は、テクニクの櫻田、体力の平山、若さの竜波、それにリハビリ中の和尚という取り合わせでした。



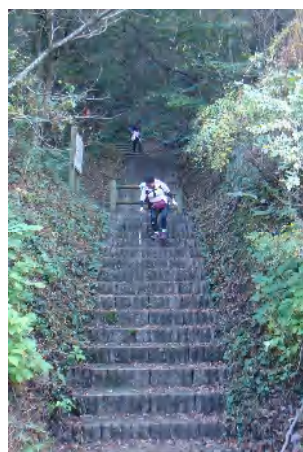
五百羅漢に見送られて、雲辺寺を後にする。



ここからが雲辺寺の下りはじめです。



まだ余裕の田中さん。



雲辺寺にはロープウェイがあるのですが、どこにあるのやら、もう4～5回お参りに来ていますが、一度も見ることがありません。来るたびに、歩いて下る道を間違わないようにとばかり気にしているからでしょうか。

その下りはじめは、落ち葉が降り積もった道。足に心地いい。そのうち、石ころだらけの坂があったり、崩れかけた崖の道があったり、そして最後は段差の大きい階段となります。

最後の階段に辿りつくくと、近くの牛舎から「モー」
と牛が迎えてくれます。

【右】下りの一番最後は、足・腰・ひざにとどめを刺すような階段です。

第12回の概要

第12回のあしあと



第12回							平成25年11月15日～17日					
期日		曜日	コ　　ー　　ス　　予　　定					食事・宿泊				
1	11月15日	金	各自羽田空港到着、チェックイン		7:20発	ANA583	8:55着	9:15発	【歩いた距離】約12.3km			
			空港連絡バス		9:30着	10:20発	JR予讃線	11:11着	11:20発	昼食：松山駅で1000円予約済 鈴木井当店089-984-2100		
			松山駅		11:31着	11:35発	一徒歩一	11:50着	12:40発			
			石鎚山駅		約0.8km	約0.8km	64番前神寺					
			一徒歩一		13:00着	13:07発	JR予讃線	13:11着	13:24発			
			約0.8km		石鎚山駅	13:49着	13:50発	一徒歩一	14:30着	14:40発	夕食：道頓堀0896-58-2838	
			JR予讃線		13:49着	13:50発	一徒歩一	14:30着	14:40発	元祖食へ放題コース		
			しおかぜ18号		伊予三島駅	約3.2km	約3.2km	戸川公園	65才以上半額			
			一徒歩一		15:35着	(15:50全員着)	16:15発	一徒歩一	17:00着			
			約3.5km		65番三角寺		約4.0km	スーパーホテル	宿泊：スーパーホテル四国中央 0896-22-9000			
18:30												
		「道頓堀」にて夕食										
2	11月16日	土	6:30	7:15	一徒歩一	7:52発	せとうちバス	8:11着	【歩いた距離】約27.7km			
			朝食	イオンにて昼食調達	約0.3km	一貫田バス停	新宮行き	平山バス停	昼食朝、イオンで調達			
			一徒歩一	8:25	一徒歩一	8:55発	一徒歩一	9:25着				
			約1.2km	高知自動車道高架下	約1.8km	榎堂で少憩後出発	約2.8km	下山口へんろ小屋				
			9:35発	一徒歩一	10:50着	12:10	一徒歩一	13:15着	夕食：「時々」（じじ）			
			下山口へんろ小屋	約4.8km	豊院峠	各自道中にて昼食	約9.3km	雲辺寺	0875-25-6511			
			(13:35全員着)	14:00発	一徒歩一	17:00着			宿泊：観音寺グランドホテル			
			66番雲辺寺		約7.5km	白藤大師堂（北峯公民館）	迎車でホテルへ		0875-25-5151			
					8:00発	一ホテルバス送り	8:15着	8:40発	一徒歩一	【歩いた距離】約20.7km		
			宿		9:20着	9:30発	一徒歩一	10:50着	11:20発	一徒歩一	昼食：道中のサンクスで購入	
妙心寺派心光院にて少憩		約6.2km	68番神恵院・69番観音寺	約3.9km								
12:10		12:20	一徒歩一	13:15着	13:40発	一徒歩一						
昼食調達		道端にて昼食	約4.2km	70番本山寺	約2.2km							
14:10着		14:23発	JR予讃線	15:34着	15:45発	一タクシー分乗一						
本山駅		快速	高松駅									
16:15着		16:45発	JAL 1410	17:55着								
高松空港				羽田空港								
								【歩いた距離】約60.7km				

【歩いた距離】約27.7km
 夕食: 松山駅で10:00予約済
 鈴木弁当店089-984-2100
 夕食: 道頓堀0896-58-2838
 元祖食べ放題コース
 65才以上半額
 宿泊: スーパーホテル四国中央
 0896-22-9000

【歩いた距離】約27.7km
 夕食: 松山駅で10:00予約済
 鈴木弁当店089-984-2100
 夕食: 道頓堀0896-58-2838
 元祖食べ放題コース
 65才以上半額
 宿泊: スーパーホテル四国中央
 0896-22-9000

【歩いた距離】約20.7km
 夕食: 松山駅で10:00予約済
 鈴木弁当店089-984-2100
 夕食: 道頓堀0896-58-2838
 元祖食べ放題コース
 65才以上半額
 宿泊: スーパーホテル四国中央
 0896-22-9000

六十七番大興寺

一巡目の思い込み

一巡目の観音寺での宿泊はかんぽの宿だったので、今回も思っていたら、土曜日は宿泊料金が高くなると言われてしまいました。もはや、かんぽの宿だから安いという概念はないようです。本来なら遍路宿としたいところですが、時間的に雲辺寺から観音寺市内まで歩くのは不可能でしたので、送迎をしてくれることを条件に宿を探したのです。そこで、観音寺グランドホテルとなりました。

ただし、食事をホテルでとることにしたら予算オーバー間違いなし。そんな時、律子さんの娘さんの彼氏が観音寺市の出身と耳にしたので、安くおいしい食事場所を探してもらったわけです。値段

のことを言うのは気が引けますが、あれで2,000円は安くて、おいしかったですよね。

翌朝、予定では大興寺まで歩く予定でした。これまた、一巡目と同じなら大丈夫だと思い込んでいました。遍路出発の数日前になって、歩くところの再確認をしているときに、大興寺まで8 kmもあることに気づいたのです。あわててホテルに電話をして、バスで送っていただくようお願いをして事なきを得ました。当初の予定より早めに大興寺に着くことができ、時間も気持ちも余裕をもってあることができたのは、観音寺グランドホテルのおかげだと、感謝しています。

一般的に、大興寺から観音寺に向かう遍路道は、大師堂の左わきからお寺の裏に出て行きます。そのつもりでいたら、下りの石段を心配した忠三さんが先に石段を下りてしまっていました。別に、裏から出て行くばかりでなく、仁王門から出ても観音寺に行けないわけではありません。仁王門で振り返ってお辞儀をして、正式に札所を後にすることができました。表からの遍路道は、遍路地図に載っていませんでしたが、ちゃんと道しるべがあるではありませんか。ということは、遍路地図にはなくても、やはり仁王門を出て歩いて行く道が正式な遍路道なのということです。遍路地図も、楽な方とか近い方とかという意図で作られていることに気づかされました。バスやタクシーのお遍路さんになんのかんと言っているくせに、楽な方とか近い方とかを考えて歩いていたのではしょうがない。せっかくの歩き遍路なのだから、できるだけ昔からの正式な道を歩かなければならないと、忠三さんに教えてもらった気がしました。



大興寺仁王門



大興寺参道の石段を下る。



朝の凜とした空気が残る中、お参りをする。

観音寺市街へ

観音寺周辺の遍路道



「やきもち」を配る甘味おじさん。

上の歩いた軌跡を記録した地図を見たら、何も文字にする必要ありませんが、少々書いてみましょう。

大興寺を後にして国道377号を渡ったところに、養鶏場があって、一巡目では鶏の糞を貯めたわきを通ったなあと思っていると、養鶏場らしき建物が見えてきます。でも、なにやら静まり返っています。近づくと、すでに一羽の鶏も見当たらない廃屋になっていました。ただし、年代物の鶏の糞が放置されたままで、そのわきを通ることに変わりありませんでした。

しばらく行くと、左手に大きな池があり、地引網をかけて魚をとっているところでした。その向かいにある小さなお寺は、一巡目でも休憩したところで、今回も少しお邪魔させていただきました。鐘楼だけが立派なお寺ですが、寄付の石板を読むと、なんと臨済宗妙心寺派ではありませんか。前回には気づきませんでした。本堂ら

しき建物の雨戸は閉まっているし、てっきり無住だと思っていましたが、この地域には少ない妙心寺派のお寺「心光院」さんとは驚きました。きっと何かのご縁なのでしょう。

市街地に入ってから、休憩を始めたなら、後ろから追いついてきた広渡さんがなにやら箱を持っています。途中のお菓子屋さん(地図中、やきもちのところ)が、お接待で「やきもち」を下さったのだそうです。大人数で歩いているのを見かけて、「やきもち」を一箱もくださいました。ごちそうさまでした。

それにしても、以前今治に出てくる途中でいただいた「たくま饅頭」といい、今回の「やきもち」といい、広渡さんほど甘味が似合う人はいないと思います。甘味おじさんとでも呼びましょうか。この先の遍路の道中には、どんな甘味と出会うことだろうかと楽しみになってきました。

この地図は、フィールドアクセスというアイホンアプリで実際の歩きを記録したもの(青線)を、カシミール3DというPCソフトで加工したもので



「やきもち」製造元
(有)汐沢製菓
観音寺市出作町1188
TEL0875-25-1264

六十八番神恵院、六十九番観音寺



観音寺の大師堂前で、記念撮影。

神の恵みもいただく

観音寺の市街地から財田川を渡り、琴弾八幡宮の参道の右手の道を進むと、一度に二つのお寺をお参りできる札所に着きます。神恵院と観音寺です。

なにしろ、観音寺での観音さまのご加護だけでなく、神恵院では神の恵みもいただけるのですから、一カ所でご朱印二つという以上にありがたい札所です。その上、お参りを終えて裏山からは、琴弾公園の銭形を眺めることができます。これを見たら、一生お金に困らないのだそうです。都合、

三つもご利益のある札所になりました。

それにあやかるのでもないでしょうが、梁川さんの娘さんが彼氏とやってきました。(左の写真) 将来の義母さんの勇姿を見て、娘もこうなるのかと頼もしく思ったのか、恐ろしく思ったのか定かではありません。

ただ、私たちの大きな声の般若心経に圧倒されただろうなどは、想像に難くありません。みんな、お二人の幸せも願っての読経だったかもしれません。



梁川さんたち。

七十番本山寺

讃岐うどんに振られる

讃岐の国に入って、最初のお昼ごはんはうどんは外せない、観音寺市内のおいしいそうなうどん屋さんを調べておきました。インターネットで日曜営業と確認したはずなのに、なんと本日休業ではありませんか。待ち焦がれていた讃岐うどんに振られてしまいました。でも、讃岐も始まったばかり、これからいくらでも食べられるでしょう。

というわけで、近くのコンビニ

でいつものように各自昼食を選んで、本山寺に向かう川沿いで食べることにしました。ということは、昨日も今日も道端の青空レストラン【右の写真】ということです。再び、お天気に感謝です。



二日間とも道端での昼食となりました。

五重塔をめざして

お昼ごはんを食べた財田川沿いの道をさかのぼると、七十番本山寺に着きます。

遍路道は、財田川の両側にあるようですが、本山寺に向かって左側の土手の上の遍路道を歩くに限ります。右側は車の往来があつて、歩き遍路には不向きです。左の土手の上の道は、車も通らず、何より本山寺の五重塔をはるかかなたに目指しながら歩くことができます。本山寺のシンボルともいえる五重塔は、四国霊場では竹林寺・志度寺・善通寺とこの本山寺の4ヶ所だけのうちの一つです。川と土手の上の道と遙かな五重塔と、道が舗装されたことと電線が見えること以外は、昔の景色となんら変わる事のない風景の中を歩くことができるのです。そのう

え、今回最後の札所に向かっているのです。三角寺への登り降り、雲辺寺越えの長丁場の歩きなどを思い出しながら歩くと、本山寺の五重塔が次第に大きくなっていくように、達成感もまた次第に大きくなっていくようです。

札所も七十を数え、残り十八か所。結願に向けての期待感も徐々に膨らませて歩いた、本山寺までの遍路道でした。



はるか本山寺の五重塔をめざして歩きます。



重要文化財の仁王門に到着。





本山駅に向かう田んぼ道で。

写真：石川 信子
広渡 寛行
宮田 宗格
文： 宮田 宗格
編集：宮田 宗格

臨済宗妙心寺派 圓福寺
263-0025
千葉市稲毛区穴川町3 7 5

電話 043(251)9181
FAX 043(251)9549
<http://www.chiba-empukuji.com>
Email: oshou@chiba-empukuji.com



2巡目第12回
平成25年
11月15日～17日

編集後記

右足かかとを骨折してからはじめての遍路でした。多少の不安を抱えながらの出発となりました。

初日を歩いての翌朝。シングルルームで目覚めて、ベッドから降りるとともに歩くことができません。ついにここでリタイヤかと不安がよぎりましたが、歩き始めたら油が行きわたったのか、なんとか歩きとおせました。しかも、雲辺寺越えの28km。リハビリには過ぎたかもしれませんが・・・。

二日間ともホテル、二日間とも道端での昼食、二日間とも夕食は外食と、記憶に残る歩き遍路だったような気がします。ようやく、讃岐の国に足を踏み入れ

ました。二巡目の結願が近づいてきたような気がします。

第13回は、平成26年2月21日から23日の二泊三日を予定しております。総本山善通寺から高松市内の八十三番一宮寺まで行きたいと思っています。国分寺から白峯寺への登りは結構きつかったような気がしますので、山が終わったと油断なならないように、またがんばりましょう。

つたない写真集を最後までご覧いただき、ありがとうございました。次回のお申し込みはお済みでしょうか、また、次回お会いしましょう。